

2008年(平成20年)1月11日 金曜日



「詩集が自らを見つめ直すきっかけになれば」と話す山本さん＝姫路市北新在家

41編につづる心の軌跡

姫路 山本さんが初の詩集

姫路市北新在家の英語講師、山本由美子さん(四)がこのほど、初の詩集「コクトーの線が見たのなら」を出版した。

山本さんは甲南女子大、同大学院で英国・ロ

マン派の詩人ワーズワースなどを研究。現在、神戸や大阪の大学で英語を教えている。

一九九六年、京都の季刊詩誌「ラヴィーン」に入会。詩集は、同誌に掲

載され、十一年間の心の軌跡を鋭い感性でつづった四十一編を収める。

表題は、フランスの詩人ジャン・コクトー(一八八九―一九六三年)に

発想を得た二〇〇一年の作品「To You」から取った。コクトーの線が見たいなら／その点まで手を引きます／その時目が見えないなら／唇で伝えます」

一創作とは、点をこたいで線にする作業。精神的に疲れていた当時、画家でもあるコクトーの控いた線に癒やされた一

その夏、米・ニューヨーク

ークへ。同時多発テロの起きた九月十一日午前、世界貿易センター近くのホテルにいた。朝寝坊しなければ、同センターを訪れていたという。

その体験を基に書いた詩が「9月11日」。殊に「無事でよかった」と言われた時の温かい感情を率直につづった。

山本さんは一人間はいつ死ぬか分からない。だからこそ、今を懸命に生きたい」と話している。

九十四号。千八百三十三
宮帯出版社 075・4
11・7747

(神谷千晶)